

## 自分の足下(あしもと)見よ

経済が不景気になると、いつも繰り返し発表されるのが、景気予測です。その度に明るい見通しが描かれますが、当たらないことばかり続くと、絵に描いた餅にすぎないと見なされるようになります。

経済もまた無常にさらされている人間の集団活動に違いありません。

本当は先の予測など、誰にも正確にわかるはずないのですが、政府や経済学者は、立場上、先の見通しをしなければならないので、あれこれの情報を駆使して予測します。しかし遠くが見えても、足下がぐらついているのだったら、意味はありません。

昔、見越入道といわれた男がいました。この男は首を伸ばせば、雲の中に入るほど高く伸びるので、人に自慢して言うのでした。

「おれが首を伸ばすと、月さえ見えるほどだから、中国、インドどころか、世界中を一望に収めることが出来る。だから世界のことで、知らないものは何もない。それに比べると、世間の者は、井戸の中の蛙のようなもので、何も知らない」それを傍らで聞いていた人が、「それなら、今、中国でどんなことがあるのか、ちょっと見て話してくれないか」と言うと、「わけもないことだ」と言って首を長々と伸ばし、「うんうん、はっきり見えるぞ。この光景を見られない下界の者はつくづくかわいそうだ」それを足下で聞いて腹を立てた人が、見越入道の両足をつかんで引き倒し、その長い首を踏んづけ、「お前から見たらかわいそうな存在のこの俺に、わけもなく倒されるとは。つくづくお前はバカだよ」と笑われ、「いかにもそうだ。おれは遠くを見る事が出来ても、足下がちっとも見えてなかった。いくら遠くが見えても、近くが見えなければ意味が無いことがよくわかったよ」と言って泣いたという。

政界や経済界のトップにいる人は、遠くを見る事ができるのですが、一般の市民が日常どんな暮らしをしているかよく見えていなければ、何の役にも立たないでしょう。

結局、一番大事なのは自分の足下ということになりそうです。